



株式会社オジックテクノロジーズ

代表取締役 金森 秀一

地域産業をデザインする

One for All, All for One の産学官連携

2013年版中小企業白書は「自己変革を遂げて躍動する中小企業・小規模事業者」と題し、地域や社会を支える中小企業が事業環境の変化に対応して、経営を変革させている状況を各ステージにおいて分析している。特に新規事業に取り組む企業の将来性を高く評価し、「事業の再生や成長の観点から、新規事業の展開は重要」としている。

シリコンアイランドの中心として発展してきた熊本の産業においても同様な動きがある。熊本に進出した大手企業の中には、グローバル競争が激化する汎用半導体とは一線を画す特殊半導体で世界シェアのトップを取るところも出ている。そこでは開発部門も熊本に集結させ、生産現場と開発が一体となって強みを発揮している。地域の中小企業も負けてはいない。半導体産業で培った経営資源を生かして医療、バイオ、輸送機器、ロボットなどの産業に展開しつつある。

新産業を創出する動きもある。熊本県産業支援課、産業技術センター、大学、そして進出企業や地域企業など281社、団体からなる一般社団法人熊本県工業連合会（以下 工業連合会）で連携し、文部科学省の外郭団体の（独）科学技術振興機構に提案したのが「くまもと有機薄膜高度化支援センター」である。日本でもトップレベルの半導体関連企業の集積、文部科学省から世界的な科学成果が見込める22の大学や機関のひとつに選ばれた熊本大学を始めとする大学群、そして産業育成に熱心な県行政。これらの力が結集した東京での最終プレゼンテーションは国も納得のものだったのだろう。その後、地域イノベーション戦略支援プログラムにも認定され、「くまもと有機エレクトロニクス連携エリア」として地域を活性化する新産業創出へと歩を確実に進めている。

あるラグビーチームのフォワードの合言葉に「トライの花となるよりトライの根となろう」というものがある。産学官が互いに連携し、地域に新しい産業の花を咲かせるため献身的に協力し合う今回の熊本の姿は、One for All, All for One のラグビー精神そのものだと思う。それぞれの動きがしっかりとした根となり、魅力的な花を咲かせることが期待される。「くまもと有機エレクトロニクス連携エリア」には、熊本に立地していない大手企業の新規事業研究者も集まり始めた。集積があり、そこにイノベーションを起こす仕組みがあると知の集積にも厚みが増し、さらなるイノベーションが起こるのだ。

今年も10月に工業連合会は蒲島熊本県知事と幸山熊本市長にそれぞれ施策提言を行った。地域資源や地域人材を活かした産業振興、農商工連携、医工連携、新産業創出などが盛り込まれている。地域に集うものが自分たちで知恵を出し合い、付加価値の高い地域産業をデザインする時代が来ている。One for All, All for One の精神で新しい産業の花がいくつも咲くことを願う。